

2022年11月10日(木) 19:30~21:00

令和4年度

第4回 セミナー 学級の困った！を一人で抱え込まないで

議事録作成 玉置ゼミ7期生 下野 綾巳

【今回の困りごと】

▼超自我 (小学校3年生)

善悪の判断がつかず、流されてしまう子どもの対応

▼挙手発言 (小学校5年生)

挙手発言をする子どもの固定化

▼気持ちに寄り添う (小学校6年生)

つるむ子どもにつるませないためには

▼教師の喋り

先生の声が聞き取れないという悩みを子どもから聞いたら

▼留意点

指導案の「留意点」に何を書けば良いか悩んでいる

【内容】

▼超自我 (小学校3年生)

善悪の判断がつかず、流されてしまう子どもの対応

- ・善悪の判断が先生基準になっている(=先生がどう思うか)
 - ・「先生にバレたら〇〇」といった声が聞こえる
 - ・11月にまだ先生基準であることが悔しい

《他の先生方のご意見》

- 小学校3年生で先生がどう思うか考えられることがすごい
先生基準であることを価値づけ「来年は先生はいないかもしれないけれどどうする？」

《和田先生のご意見》

- 次の学年では、良い意味で次の学年の担任の先生に染まる
今子どもたちが先生基準で考えている価値観は、次の学年でも残る
先生からもらった価値観はどんどん子どもに貯金されていく
- 「先生はなんて言うと思う？」
子どもが「これしても良い？」等の質問をしてきた時に「先生、なんて言うと思う？」と問いかける。多くは、正しいことを言う。「先生に聞かなくても、もう大丈夫！」
どんどん自分で判断できるようになる

《玉置先生のご意見》

- **超自我** = 自我を超えて引き止めるもの
これをする[先生・親]が悲しむな 等の自我を超えた判断
先生はいつまでも超自我であることはないが、超自我の存在であることが大切

▼**挙手発言** (小学校5年生)

挙手発言をする子どもの固定化

- みんな授業は楽しそうだけれど、授業を進める人が固定化している
子どもが自由に発言できる授業をつくりたい

《他の先生方のご意見》

- 「どう思う？」「一緒に考えてみよう」と教師は質問する側に徹している
火種となる子どもの発言に頷いたりしている子どもを意図的指名している
- 場面によって[挙手]と[意図的指名]を使い分ける
- はじめの発問では、選択形式の発問とし全員が意見を持てるようにする
広がる・深まる発問は挙手が減っても仕方がないと思うようにしている
- 「言いたい人！」と投げかけると低学年は挙手率が上がる

《玉置先生のご意見》

- **ノート発言・表情発言**
野口芳宏先生は、「挙手して発言するだけが発言ではない」と話される

ノートに書いてあることも、困った表情も、全てが発言だと捉える大切さ

● **つぶやき**を板書

ペア活動やグループ活動で聞こえてくる「つぶやき」を板書し、授業を広げていく
＝つぶやきから集団追求を

《和田先生のご意見》

● 授業に全員参加している？

「この子たちが同じものを見て、考えているかな？」の視点を大切にする《考えることに参加する＝授業に参加している》

参加の表現は、ノートや表情、挙手等多様であってよい。大切なことは「**考えること（授業）に参加しているか**

▼ **気持ちに寄り添う**（小学校6年生）

つるむ子どもにつるませないためには

→放課4・5人で図書館に溜まり、騒いだり遊んだりしてしまう児童

自分たちでは静かにしているつもりでも周りに迷惑をかけており他学年とトラブル
放課に仕事を与える等、手は打ったが効果はない

《玉置先生と和田先生のご意見》

● **気持ちに寄り添う**

なぜその数人が図書館で集まり、図書館で話したいのか

子どもの気持ちに寄り添って話を聞くことが大切

本質的な要因は、すぐには出てこないかもしれないが根気よく子どもに寄り添う

▼ **教師の喋り**

先生の声が聞き取れないという悩みを子どもから聞いたら

→自分が担当していない教科で、授業で何をやっているか分からないという相談を受けた
周りの子もよく分かっていない様子

《和田先生のご意見》

● **自分の目で確かめる**

子どもの訴えに対して自分はどう感じるのかを確かめる

教科担任制だからこそ出てくる悩みでもある

《玉置先生のご意見》

●教師の喋り

抑揚があり、メリハリがある

教師の喋りは子どもを惹きつけるものでなければならない

▼留意点

指導案の「留意点」に何を書けば良いか悩んでいる

《他の先生方のご意見》

●活動：子どもの動き

留意点：教師の動き（子どもの姿を想像して書く）

- 高位・低位に分けて支援の手立てを書く
- 低位の子を主に思い浮かべて書く
- 学習活動に対する手立て

《和田先生のご意見》

●指導案は教師の授業方針

留意点：教師の動き + なぜそうするのか／何をねらっているのか = ブレない授業